

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第7回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 平成13年3月14日 (水) 13:30~17:00

2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 有富 (主査), 山路 (副主査), 尾寄, 金井, 三枝, 手塚, 中込, 中澤, 西岡, 二瓶, 広瀬, 丸岡
(12名)

(代理出席委員) 大塚 (平野委員代理), 竹田 (高橋幹事代理), 林田 (内藤委員代理), 藤田 (上園委員代理)
(4名)

(欠席委員) 小佐古, 宮下 (2名)

(常時参加者) 石川, 海老原 (白井代理), 岡村, 長田, 川上, 酒谷 (高橋 (秀) 代理), 佐治, 白木, 白倉, 高橋 (雄), 増田, 松岡 (谷内代理), 松本 (務), 松本 (善), 森本, 山中, 吉村 (17名)

(傍聴者) 清水, 高橋 (智) (2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F4SC7-1 第6回 リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)

F4SC7-2 標準委員会の活動状況

F4SC7-3 免責条項/著作権/標準の利用にあたって

F4SC7-4 使用済燃料中間貯蔵施設用金属カスクの安全設計・評価基準の作成に関する検討状況報告

F4SC7-5 使用済燃料中間貯蔵施設用金属カスクの安全設計・評価基準 (案)

F4SC7-6 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

参考資料

F4SC7-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 18名の委員中, 12名の委員と4名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告があった。

事務局より宮下委員及び高橋幹事から今回をもって退任の連絡を受けている旨の報告があった。有富主査より岩田氏(原子力安全・保安院), 尾寄委員より竹田氏(東京電力)を新たな委員とする提案があり, 全会一致で承認された。また, 事務局より吉田氏, 佐治氏(原子力安全委員会事務局), 岡村氏, 白井氏(東京電力), 森本氏(原燃輸送), 中谷氏(オーシーエル)が常時参加者への登録を希望されている旨の報告があり, 全会一致で承認された。

(2) 前回議事録の確認

事務局より, 前回議事録の確認が行われ, 承認された。(F4SC7-1)

(3) 標準委員会等の活動状況について

事務局より標準委員会等の活動状況の報告及び標準に記載される「免責条項/著作権/標準の利用にあたって」の説明があった。(F4SC7-2,3)

(4) 標準原案の構成について

竹田幹事代理より説明があり, 議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F4SC7-4)

- ・ 貯蔵施設については, 原子力安全委員会にて検討が行われている指針の動向により, どの程度記載するか今後検討したい。
- ・ 原子力安全委員会中間貯蔵施設指針検討分科会では, 本年の夏以降に分科会における方針が明らかになってくるのではないかと。

有富主査より本分科会にて作成する標準原案は, 使用済燃料貯蔵施設で用いる輸送貯蔵兼用カスクの安全設計・安全評価として, 輸送容器として及び貯蔵容器としてのそれぞれの設計の考え方, 手法等を詳述するとともに, 検査及び管理・運用を規定することが提案され全会一致で承認された。

(5) 標準原案について

広瀬委員より説明があり, 議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F4SC7-5)

a. 適用範囲, 定義

- ・ 法令の記載名称については, 再度確認を行う。

b. 金属キャスクの安全設計・評価

- ・ 耐震設計については、耐震クラスを定めず、基本的安全機能維持を確認するのが基本であるが、現状技術ではAsクラスと考えている。
- ・ 3.1.2b)より乾式の容器を前提としていることを明記している。
- ・ 密封評価用のソースタームについては、更に調査検討を行い、広く意見を求めたい。
- ・ 乾式キャスクのソースタームで、プール水の移行を考慮しているのはどのようなことか確認する必要がある。
- ・ 異常事象のあったキャスクについては、解析により健全性の担保を取る必要がある。
- ・ 事故時評価における評価期間は、「復旧時間を考慮し」などと、その根拠を記載することが好ましい。

c. 金属キャスクの検査

- ・ 貯蔵後の輸送時に、蓋を開けずに発送前検査を行う方法について考え方を整理する必要がある。
- ・ 貯蔵期間中の遮蔽性能確認検査は、レジンの劣化傾向をつかむことを考えている。

d. 金属キャスクの運用・管理

- ・ 施設としてモニターを設置するオプションについて、場合分けするなどして検討したい。
- ・ 異常時の措置については、考え方の整理が必要である。

以上の議論を踏まえ、3.1中間貯蔵施設の安全設計の基本的考え方について、方向性が承認され、更に検討を進めることとなった。なお、附属書、解説については、基準本体（本文）の構成が整った段階で審議を行うこととなった。

更に、有富主査より第5回原子燃料サイクル専門部会へ検討状況報告として「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計・評価基準の作成に関する検討状況報告」（F4SC7-4）に「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計・評価基準（案）」（F4SC7-5）を添付し行うことが提案され、全会一致で承認された。なお、基準（案）については引き続きコメントを学会事務局まで送付することとなり、第5回原子燃料サイクル専門部会用資料への反映は、有富主査へ一任された。

6. 今後の予定

次回分科会（第8回）については、別途連絡することとなった。

以上